

生活に生きる実践力を育てる授業の在り方

—学んだことを積極的に活用する生徒の育成を通して—

技術・家庭科 伊藤 秀哲 星野 めぐみ

1 はじめに

「知識基盤社会」の時代を担う現代の子どもたちには、変化の激しい社会で自立的に生きていくための「生きる力」が必要とされている。平成20年3月に告示された学習指導要領においても「生きる力」をはぐくむことが第一の目標となっている。その中で技術・家庭科では、「生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して、生活と技術との関わりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。」ことが目標とされている。また、内容の取り扱いについて、「(1)基礎的・基本的な知識及び技術を習得し、基本的な概念などの理解を深めるとともに、仕事の楽しさや完成の喜びを体得させるよう、実践的・体験的な学習活動を充実すること。」や「(2)生徒が学習した知識及び技術を生活に活用できるよう、問題解決的な学習を充実するとともに、家庭や地域社会との連携を図るようにすること。」とあり、知識及び技術の習得、生活への活用ができるような学習活動をより充実させる必要があることが示されている。

以上のような学習指導要領改訂の理念や本校本教科のこれまでの研究における取り組みをふまえながら、学習で習得した基礎的・基本的な知識及び技術を次の学習や生活の中で積極的に活用できるような生徒を育成していきたいと考えた。そこで、研究テーマを「生活に生きる実践力を育てる授業の在り方—学んだことを積極的に活用する生徒の育成を通して—」と設定した。本研究では、学んだことが生活における実践につながるような工夫をした、活用型学習活動を取り入れた授業の開発と実践を行い、事例集を作成していく。

2 研究内容

1 研究の仮説

本研究を実践していくにあたり、研究仮説を次のようにおいた。

活用型学習活動を実践し、学んだことを積極的に活用できるように学習指導の工夫をすることで、生徒の知識及び技術の習得を促進させるとともに、生活に生きる実践力を育てることができるであろう。

2 生活に生きる実践力について

「生活に生きる実践力」とは、本教科の目標にある「進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度」を主体として、本教科の各学習場面で習得させる基礎的・基本的な知識及び技術や育成すべき能力等を身に付けることによって育成される「生

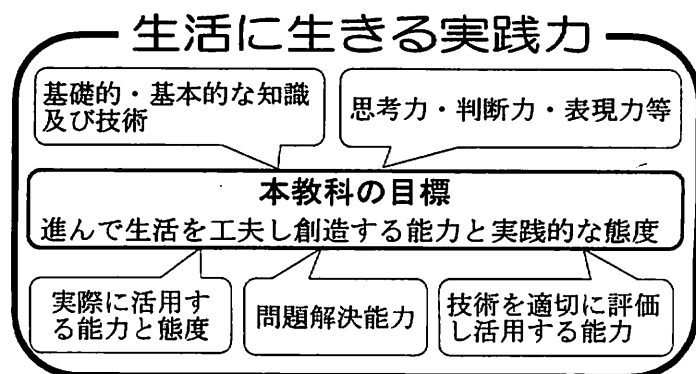


図1 生活に生きる実践力

活をより良くしようとする総合的な能力」と考えた。図1は、その構想図を示している。活用型学習活動を実践するとともに、学習したことと生活とのつながりを意識させるようなはたらきかけをしていくことで、生活に生きる実践力を育てていきたいと考える。そして生徒が、家庭や学校、地域社会等、将来にわたって関わっていく生活全般において、学んだことを積極的に活用し、より多くの場面で実践しようとする意欲を持てるようになっていきたい。

3 本教科における活用型学習活動の考え方

本校の共同研究における活用型学習活動は、中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について(答申)」の思考力・判断力・表現力等の育成に関わる、次に示すような6項目の学習活動例を出発点としている。

- ① 体験から感じ取ったことを表現する
- ② 事実を正確に理解し伝達する
- ③ 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする
- ④ 情報を分析・評価し、論述する
- ⑤ 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する
- ⑥ 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる

また、活用型学習活動の基本的な考え方としては、次に示すア、イのような活動であることとした。

- ア 各教科で習得された基礎的・基本的な知識・技能を「活用」することで、その内容の理解をより深められるような活動であること。
- イ 「活用」することで、「探究」につながるような、活用能力(何を使うか、いかに使うか等)を身に付けさせることを意図した活動であること。

以上のことをふまえながら、本教科における活用型学習活動について検討していった。

本教科において主に実践されている学習活動は、「実践的・体験的な学習」や「問題解決的な学習」である。実践的・体験的な学習は「体験から、知識と技術などを獲得し、基本的な概念などの理解を深め、実際に活用する能力と態度を育成するため」に、問題解決的な学習は「知識と技術などを活用して、学習や実際の生活において課題を発見し解決できる能力を育成するため」に行っている。これらの学習は、「知識・技能の活用」や「活用能力の育成」することが含まれており、前述の6項目の学習活動例や本校の基本的な考え方ア、イにもつながると考えられる。そこで、これまで行ってきた学習について、活動内容を見直したり、工夫・改善したりすることでさらに充実化させ、生徒の知識及び技術の習得を促進させるとともに、活用能力を身に付けさせられるようにしていきたい。そして、学習内容と生活との関わりの理解を促進させるはたらきかけをすることで、学んだことを実生活の中で活用しようとする意欲を持たせていきたいと考えた。

4 活用型学習活動を取り入れた授業の構想

活用型学習活動を取り入れた授業を構想するにあたり、本研究における学習の流れを整理するとともに、具体的な学習場面、指導の手だてに在り方について検討することにした。

はじめに、学習の流れを整理したことをまとめた図は、次ページの図2の通りである。

まず、授業において生徒が活用する知識・技術について整理した。活用される知識・技術は、「技術・家庭科における既習事項」「生活の中で経験的に学んだこと」「小学校家庭科、

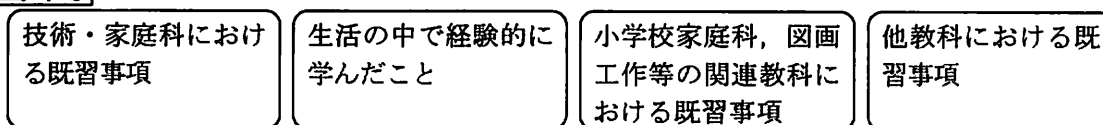
図画工作等の関連教科における既習事項」「他教科における既習事項」である。課題や活動場面に応じて、それまでの学習や生活経験から学んだことの中から何を活用するのかを確認し、本時の学習に必要なことを想起させられるような発問などを用意するようにした。

実際に活用型学習活動を行う場面は、「実践的・体験的な学習」「問題解決的な学習」を中心として、「課題解決学習」などの各学習活動における場면을想定した。学習を進める中で、生徒が「予想」「検討」「比較」「試行錯誤」などを行い、体験から感じたり、考えたりすることで、実感を伴いながら知識・技術の定着や習得がなされるようにした。

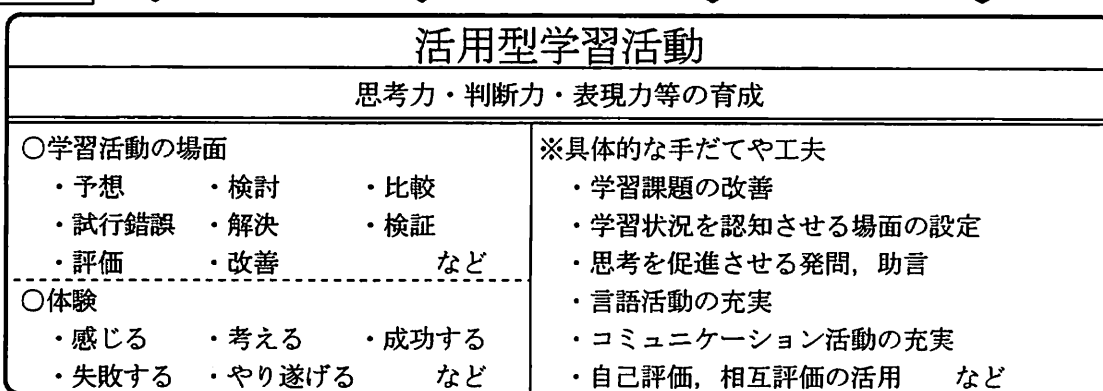
その際には、「生徒に自己の学習状況を客観的に認知させるような場面を設定すること」や「言語活動を充実させられるようにすること」、「コミュニケーション活動を充実させ、他者との関わりを意識しながら学習に取り組ませること」などを留意点としていき、場面に応じた具体的な手だてを考え、講じていくことにした。

このような流れに留意しながら、授業を構想・実践していき、「概念化された、より質の高い知識・技術」や「工夫し創造する能力」、「実践しようとする意欲」などの「生活に生きる実践力」を育成したいと考えた。そして、授業で学んだことが、「次の学習における活用」に生かされたり、生活とのかかわりについての理解を促進させるような働きかけをしていくことで「実生活における活用」に生かされたりするようにしていきたいと考えた。

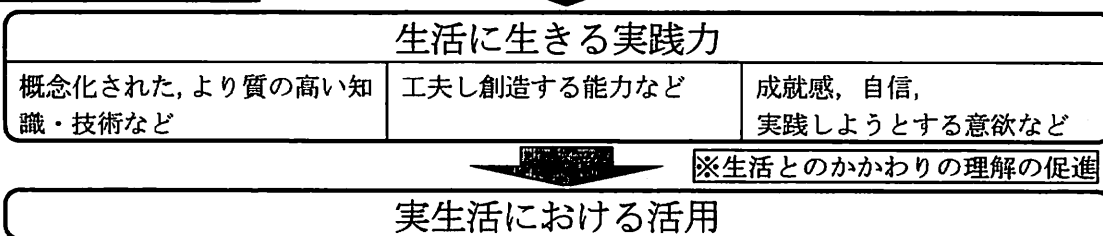
習得



活用



定着・習得



○生徒の活動 (p.2の中教審答申における6項目の活用型の学習活動例に含まれると考えられるもの)
 ※教師の留意点

図2 本教科における活用型学習活動の流れ(構想図)

次に、活用型学習活動を実践するにあたり、「生活に生きる実践力」を育成するために、生徒の思考や判断を活性化したり、豊かな表現をさせたりするような、具体的な学習場面の設定、指導の手だての在り方について検討した。表1は、その内容を示したものである。

表1 具体的な学習場面の設定、指導の手だての例

学習場面の設定	指導の手だての例
<ul style="list-style-type: none"> ・どんな知識や技術を活用させるかを明確にし、生徒が多様な視点や考えを出せるような、学習課題を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒がこれまでの経験や学習内容を想起できるような発問をし、本時の学習とのつながりを確認させる。
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自分なりの目標や課題が立てられるような場面を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標や課題を立てやすくするために、具体的な目標指標を提示する。
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に予想や計画を立てさせ、課題解決の方法について検討する場面を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の学習状況や他との関わりなどを意識させながら、解決方法を検討させる。
<ul style="list-style-type: none"> ・実感を伴った習得がなされるように、比較・分類したり、試行錯誤したりできるような実践的・体験的な活動を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の思考や判断を促進させるために、考えたことを整理することを促したり、ヒントとなるような発問や助言をしたりする。 ・体験から感じたり考えたりしたことを、理由や根拠を示しながら分かりやすく表現するよう意識させる。
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自己の学習状況を認知し、評価や改善、検証ができるように、自己評価や相互評価する場面を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の基準や視点を明確にし、客観的な評価ができるように意識させる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ペアやグループ、クラス全体など、状況に応じた学習形態をとり、意見交換や話し合い、発表をする場面を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意見交換や話し合いの視点を明確にするとともに、適切な表現で伝え合うように意識させる。
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が成就感や自信を持てるように、自己の目標や課題の達成状況を振り返る場面を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自己の学習状況を認知できるように、学習を振り返って考えたことや身に付けたことなどを、より具体的に記述させるようにする。
<ul style="list-style-type: none"> ・学んだことと生活との関わりについて、理解を促進させるような場面を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことと生活とのかかわりについて実感できるような事例などを出し、生活における実践への意欲付けをする。

以上のような構想をもとに、活用型学習活動を取り入れた授業の開発と実践を行ってきた。次項には、技術分野と家庭分野の授業の実践事例を示す。

5 技術分野の実践事例

技術分野では、題材「ロボットを自在に操ろう」(B 情報とコンピュータ)の授業実践例を紹介する。本時の指導及び展開は、次の通りである。

(1) 本事例の概要

項目・内容項目	ロボットを自在に操ろう (B 情報とコンピュータ)
学年	第3学年
本時のねらい	自分の考えた課題解決の方法をフローチャートにかき表し、ロボットの制御プログラムを作成・改良することができる。
活用型学習活動を通して育てたい力	・課題解決のための見通しを立て、試行錯誤しながら検証し、解決する能力。 ・習得した知識や技術を、学習場面において実践する力。
中教審答申における活用型学習活動例との関連	⑤課題について、構想を立て実践し、評価・改善する。 これまでの学習で習得した「考えをまとめる技術」「計測・制御や情報処理の手順に関する知識」「プログラムの作成技能」などを活用し、課題に応じてセンサを使い分けたプログラムの構想・作成しながら試行錯誤させることで、思考力や判断力、表現力等を育成する。
本校活用型学習活動との関連	「活用」することで、「探究」につながるような、活用能力(何を使うか、いかに使うか等)を身に付けさせることを意図した活動であること。
学習課題や授業過程で留意すべきこと	・自己の学習状況の認知(ロボット制御により、自分のプログラムを検証し、評価・改善する。) ・言葉の適切な使用(課題解決のために構想を、フローチャートなどを用いて説明する。) ・対人意識(グループで互いの考えを交換し合う。)
何を活用させたのか	「考えをまとめる技術」 フローチャート、KJ法、N2法、Webリンク構想図、計画や段取りをした経験など 「計測・制御や情報処理の手順に関する知識」 センサの種類とはたらき、順次・反復・分岐の処理など 「プログラムの作成技術」 プログラムの入力・保存・転送など
活用型学習活動の場面	・予想・検討・比較・試行錯誤・解決・検証・評価・改善
本時の習得内容の今後の活用場面	・「アルゴリズムの手法」や「考えを図式化する技術」の習得により、「自分の考えを整理したり、自分の行動を判断したりするときに活用」できるようにする。 ・課題解決の過程で思考、判断、表現することで習得された知識・技術をもとに、計測・制御の技術を評価したり、活用したりする。

(2) 本時の展開

学習の流れ	指導上の留意点	教員・資料
前時までの復習	・前時までの内容について確認し、本時への動機付けをする。	
学習課題の提示	ロボットを自在に操り、たくさんのピンを倒そう ・自分の考えをもとにしてフローチャートをかき、プログラムでロボットを制御することを知らせる。 ・具体的目標指標を示し、意欲付けをする。	ワークシート
考えのまとめ方	・前時に考えた作戦(課題解決の方法)をもとに、フローチャートにかき表し、考えを整理することを知らせる。 ・課題のルールを確認させる。	ワークシート
自分の考えた課題解決の方法	・自分の考えた作戦をもとにフローチャートをかめせる。 ・わかりやすくかくことを意識させ、くり返しや分岐の条件(センサの種類や時間など)、条件に応じた動作などを明確に記入するように指示する。 ・かき上げたフローチャートをグループ内で説明し合い、自分の考えをわかりやすく伝えるときも、他の人の考えも参考に、自分のプログラムに生かせるようにさせる。	ワークシート
① 検証・発表・記入	○自分の考えた課題解決の方法をフローチャートにかき表し、必要に応じて工夫、改良することができる。 ・数人の生徒に自分の考えを発表させながら、条件判定や処理の手順について補足説明する。 ・フローチャートを工夫している生徒のプリントをコピーし参考資料として提示させる。 ☆活用型学習活動 (⑤課題について、構想を立て実践し、評価・改善する) (これまで習得した知識・技術の活用)	コピー機 掲示板
プログラムの作成とロボットの制御	・自分のフローチャートをもとにプログラムを作成し、ロボットを制御しながらより良いものに仕上げていくことを知らせる。	
プログラムの作成とロボットの制御	・フローチャートをもとに、プログラムを作成させ、ロボットを制御して確かめさせる。 ・プログラムがうまく作成できない生徒には、提示物等の考え方を参考にさせたり、プログラムの入力方法などを補足説明したりする。	ワークシート PC ロボット コート板 競技コート
② 検証・発表・記入	○自分の考えをもとにプログラムを作成し、ロボットを制御しながら改良することができる。 ☆活用型学習活動 (⑤課題について、構想を立て実践し、評価・改善する) (これまで習得した知識・技術の活用)	
自己評価	・具体的目標指標とふり返しシートを記入させる。	ワークシート
本時のまとめ・予告	・本時のまとめと次時の内容を知らせる。	

前時の授業では、学習課題に応じた自分なりの解決方法を、ワークシートに図やコメントなどにかき入れさせている。

課題の提示の場面では、課題解決のための工夫をすることなど、具体的な目標指標を示すことで、意欲付けする。

考えをまとめる場面では、前時にかいた図やコメントをもとに、本教科特有の言語であるフローチャートにかき表し、それを使ってグループや全体で説明する活動をさせる。この際、センサの使い方や情報処理の方法等を具体的に含めるようにさせ、これまでの学習内容を活用できるように配慮する。また、他のグループの考えも参照できるような工夫をする。

プログラムの作成とロボットの制御をする場面では、互いにロボットの動きを観察させながらプログラムの妥当性の評価と改善点の検討する試行錯誤の活動をさせる。この際、プログラムの作成技術を活用し、処理の手順を工夫するような活動になるようにする。

(3) 生徒の活動の様子

図3に授業で使用したワークシート、図4に授業の様子を撮影した写真を示す。授業において生徒は、自分の考えた解決方法をフローチャートにかき表して整理し、互いの考えを交換し合うことで、よりよい解決方法を導き出そうとしていた。そして、それをもとにプログラムを作成し、ロボット制御して、動きを確かめては修正するというように試行錯誤をしていた。このような様子から、生徒が活発に思考や判断をしている姿を見て取ることができた

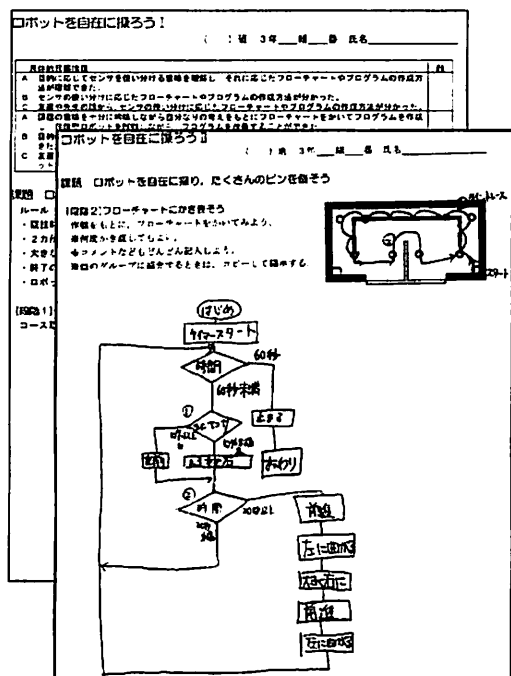


図3 ワークシート



自分の考えをフローチャートにかき表している様子

自分の考えを発表する前に、フローチャートを板書している様子

センサの感度を確認し、条件判定の設定を検討している様子

ロボットを制御し、プログラムを検証している様子

図4 授業の様子

(4) 本事例前後の授業について

ア 本時までの授業について

本時までの授業では、計測・制御のしくみやプログラムの構成、フローチャートのかき方等を学習した後、情報処理の手順（順次、条件分岐、条件くり返し）に従って簡単なプログラムの作成やロボットの制御をして基礎的・基本的な知識及び技術を習得する学習を行っている。その際にも、各所に思考や判断、表現を活発に行わせるような活動を取り入れたり、思考を促すような発問をしたり、学習活動の工夫をしている。

イ 本時の後の授業について

本時の学習の後には、一般的に使われている計測・制御システムを利用した具体的な機器を取り上げ、機能やはたらきについて調べたり、評価したりする学習を行っている。それにより、本題材における学習と生活とのかかわりについての理解を深めさせ、実生活において機器を有効に活用する意欲につながるようにしている。

(5) 実践のまとめ

本事例では、これまで学習したあらゆる知識・技術を活用する学習となるように意図して行ったが、課題の難易度が高かったため、十分に解決できた生徒は少なかった。しかしながら、取り組んでいる過程で、生徒の思考や判断は活発になされていたと思われる。

6 家庭分野の事例

家庭分野では、題材「わたしのワードローブ」(C(1)衣生活の選択と手入れ)の授業実践例を紹介する。本時の指導及び展開は、次の通りである。

(1) 本事例の概要

題目・内容項目	わたしのワードローブ、どう生かす?(C(1)衣生活の選択と手入れ)
学年	第1学年
本時のねらい	ワードローブの点検から衣服計画の必要性を理解し、自分なりに衣服の活用を工夫しようとする。
活用型学習活動を通して育てたい力	・ワードローブの点検から、現状を把握し、分析して問題点を指摘する力 ・自分のワードローブの問題点を、これまでの衣生活の学習を活用し、課題を解決する力
中教審答申における活用型学習活動例との関連	①体験から感じ取ったことを表現する ワードローブの点検から着る理由・着ない理由を挙げることで、いろいろな視点から問題点に気付く。 ⑤課題について、構想を立て実践し、評価・改善する。 衣服計画の必要性を理解し、自分なりの解決方法を工夫する。
本校活用型学習活動との関連	ア 各教科で習得された基礎的・基本的な知識・技能を「活用」することで、その内容の理解をより深められるような活動であること
学習課題や授業過程で留意すべきこと	言葉の適切な使用 ・ワードローブ点検から、自分の持っている服を着る理由・着ない理由を述べる。 改善策を考えさせる
何を活用させたのか	・小学校家庭科で学習した衣服についての知識・技術 ・前時までの技術・家庭科の衣生活についての知識・技術
活用型学習活動の場面	・感じる ・考える ・検証 ・評価 ・改善
本時の習得内容の今後の活用場面	・実生活における衣生活の場面

(2) 本時の展開について

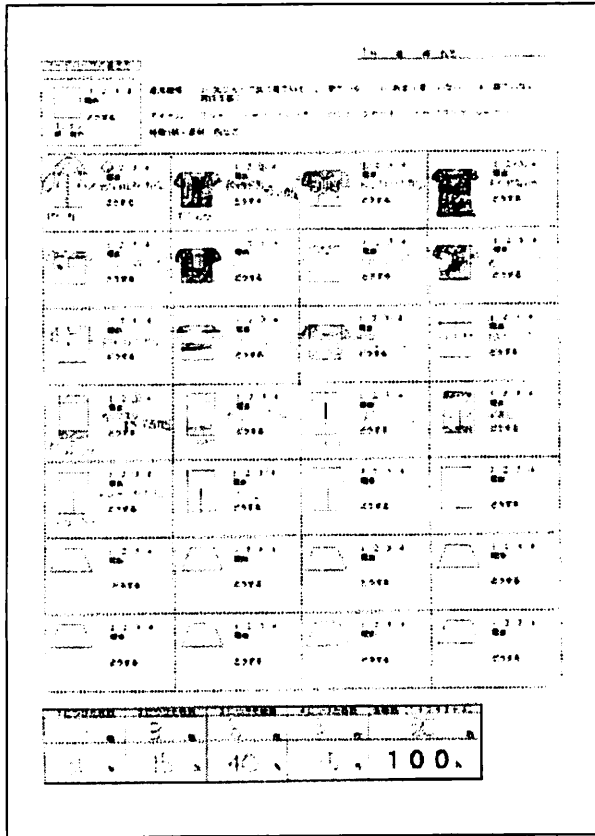
(5)展開「衣服の選択と手入れ」-わたしのワードローブ、どう生かす? -
☆研究との関連 ◇評価

学習の流れ	指導上の留意点と評価	教材・教具
ワードローブ点検結果	・円グラフ「着る服・着ていない服」を見て、それぞれの比率を知らせ、問題点があるか問いかける。	提示資料 ・円グラフ
学習課題の提示	わたしのワードローブ、どう生かす?	学習プリント
着る理由 着ない理由	・ワードローブ点検表から、着る服と着ない服があるのはなぜか考えさせ、学習カードに記入させ、発表させる。 ◇評価項目①(知) ①点検結果から、着る理由、着ない理由を考えられる ②点検結果から、着る理由、着ない理由をいろいろな視点から考え、衣服計画の必要性を記入し、発表している。 ③点検結果から、着る理由、着ない理由をいっつか考えている	フラッシュカード
ワーキング発表①	☆活用との関連(①感じたことを表現する) ・着る理由、着ない理由を発表させる。生活体験から、着る服と着ない服はどこが違うのかをよく考えさせるようにし、衣服の選択、機能、好みなどいろいろな視点が出るようになるが、 ・ワードローブの活用方法にはいろいろあり、購入するだけでなく、現在あるものを用いるようにしていくこともできることに触れる。 ・着る理由と着ない理由を分類し、どのような視点で衣服計画を行ったらいいかを考えるヒントとし、活用術の考え方を示す。 ・自分の衣生活の問題点から、改善、活用方法を考え、なりた自分表現させる。	
計画の必要性	今までこうだった → これからこうしたい このような服がある → こうして着たい 利用したい	
ワードローブを生かす方法	予想される生徒の活用法 ・サイズの合わなかった服を直して着用したい。 ・持ち服とコーディネートできるように点検してから購入したい。 ・小さいものは妹や弟に譲ろう。 ・衝動買いが多かったので、賢く購入して、無駄をなくしたい。	
ワーキング発表②	◇評価項目②(行) ③年神の服を具体的に挙げ、自分なりの活用方法を工夫し、実践しようとする。 ④年神の服を具体的に挙げ、自分なりの活用方法を工夫し、実践しようとする。 ⑤自分なりの衣服の活用方法を工夫し、実践しようとする	
補説	☆活用との関連(⑤課題を構想を立て実践する) ・自分の衣服計画の問題点を検討し改善、活用する方法を考える。考えにくい場合には、キーワードを与え、改善のポイントを発見できるようにする。 ・ワード 必要枚数 保管の方法 コーディネート 手入れや補修 リメイク ・環境問題にも触れ、衣服計画の必要性を確認する。	
本時のまとめ		

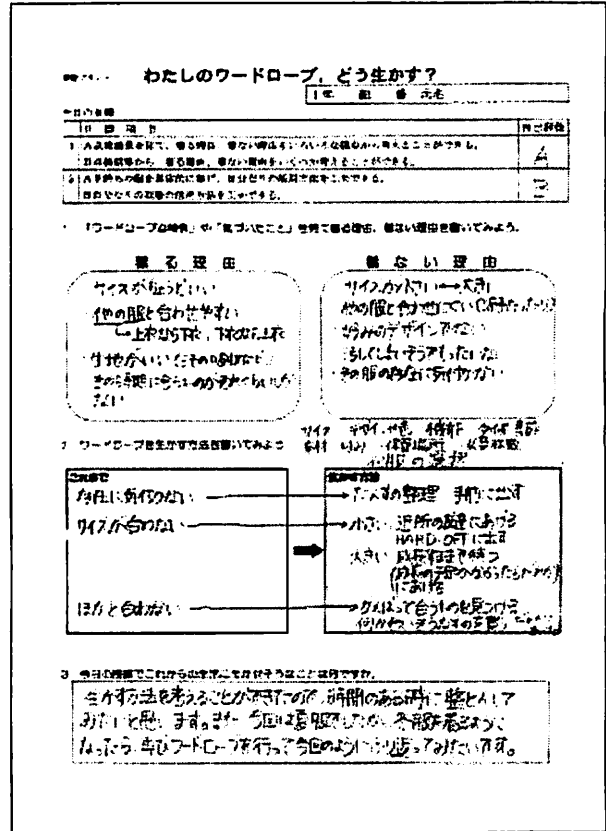
生徒は本時までには自分のワードローブ(持ち服)を調査してきている。(ワークシート1)

課題提示の場面では、自分のワードローブの調査結果から着る理由、着ない理由を数多く挙げさせ、分類することにより、課題解決をしていく視点を考えさせる。課題解決の視点としては、中学1年生の成長期であることから、サイズや好みの変化など衣服の購入に関わる事柄が挙がりやすいが、着心地や手入れ、衣服の補修、衣類の保管に関わる内容も挙げさせるように注意する。

解決の場面では自分の持ち服一着一着を検討しても良いし、衣生活全体の改善でも良いことを説明し、改善策を考えさせる。また、新しい衣服を購入することで解決するのではなく、自分の持ち服を上手に活用する方法はないか探らせたり、環境に配慮することにも触れ、次時につながるようにする。(ワークシート2)



ワークシート 1



ワークシート 2

(3) 本事例前後の授業について

指導計画 (C (1) 衣生活の選択と手入れ 14時間扱い)	
(1) 衣服のはたらきを考えよう	2
(2) 自分の色を見つけよう	1
(3) 自分らしい衣服をコーディネートしよう	1
(4) 被服材料の特徴と手入れについて考えよう	2
(5) 日常着の手入れ	
①簡易クリーニングにチャレンジ	1
②衣服の補修方法を覚えよう	4
③衣服の洗濯と保管の方法を知ろう	1
(6) わたしのワードローブどう生かす?	1 ー 本時
(7) 資源や環境に配慮した衣生活を考えよう	1

上記の指導計画のように、本授業はC(1)の流れの中でまとめの授業に位置する。従ってこれまでの衣生活の授業の中で習得した知識や技術をフルに活用させ、自分の課題発見し、様々な視点で思考し、解決策を見出していくようにする。また、本時後の授業では、限られた資源を大切に、環境に配慮した衣生活について学習することで、自分の衣生活が環境とつながっていることを認識できるようにする。

(4) 実践のまとめ

本授業を終えて、衣生活への興味関心が高まったことが第一の成果である。この題材では、基本的には個人で課題を発見し、解決していく。しかし、問題点を共有し、視点を確認したことで、生徒はどのように思考し、解決策を見出していったらよいか理解できたようで、実生活に生かしたいという感想が多数見られた。

3 研究のまとめ

1 研究の評価について

活用型学習活動を取り入れた授業を構想、実践していく中で、生徒がどのように変容したかを見とるための、評価方法の検討を行った。評価の内容は、「基礎的・基本的な知識・技術の習得が促進されたか」「思考力・判断力・表現力等の育成がされたか」「生活における実践意欲が向上したか」などである。次に、評価方法の具体例を示す。

- 活用型学習活動によって、基礎的・基本的な知識及び技術の習得が促進されたかを評価するため、確認テストを行ったり、その後の学習における活用状況を見とったりする。
- 活用型学習活動によって、思考力・判断力・表現力等の育成がされたかを評価するため、授業における生徒の発言やワークシートの記入状況の記録を蓄積していく。
- 学習内容の理解度や実践しようとする意欲の変化を評価するため、中村氏らの文献を参考にし、小題材内で学習前と学習後のコメントの比較やふり返しシートによるコメントの蓄積などを行う。
- 生活における実践状況を評価するため、生徒、保護者アンケートを継続する。特に、「生徒が本教科の有用性を感じているか」「生徒が学んだことを実践しようとする意欲を持つことができているか」などを中心に調査する。また、「特定の課題に関する調査」との比較をしながら、本研究において効果が上がった部分があるかを調査する。

2 実践例から

前述の評価方法に基づいて、本論文の事例について、生徒の発言やワークシートのコメントなどを蓄積した。ここでは、「生活における実践意欲が向上したか」という観点に関することについて、技術分野と家庭分野、それぞれの題材におけるワークシートに記述されていたコメントを紹介する。以下のようなコメントからは、生徒が学習したことと生活との関わりを理解したことや実践への意欲を感じているような様子がうかがえる。

技術分野

- ・ものづくりやソフトウェアの使い方、ロボットのプログラミングなど、習ったことの応用が、今の様々な技術につながっていることが分かった。便利な機械がどんどん出てきている今、その基本に触れることができて楽しかった。
- ・計測や制御の技術を使った製品は、人間と同じ働き方をしていることが分かった。
- ・技術でコンピュータの使い方や、ロボットについて学び、生活の中でも生かすことができる場面があった。これからも生かすことができたらいいなと思う。
- ・普段の何気ない生活もよく見てみるとパソコンのようにプログラムになっているんだと分かった。
- ・いろいろな流れをフローチャートで表すことができる。他教科のまとめや発表の時、こういう図を使えば分かりやすいと思う。
- ・プログラムといっても、人間でいう計画を、機械でやっていだけで、単純に考えればいいんだと、イメージが変わった。

家庭分野

- ・生かす方法を考えることができたので、時間のあるときに整頓してみたいと思います。また、今回は夏服でしたが、冬服を着るようになったら、ぜひワードローブ点検を行って今回のように振り返ってみたいです。
- ・ワードローブを見直したときの反省点をもとに、これから生かせることを見つけられて良かった。服のことも大切だけれども、環境に優しいことも大切だと感じられた。
- ・服は自分で選んで買うようにし、その服を長持ちできるように、管理などに気を付ける。サイズが合わなかったりしたら、資源ゴミに出せると聞いたので、それに出したり、フリーマーケットなどで出したいと思った。
- ・自分で考えたワードローブ改善法のように、今までの服の着方を訂正し、服の長所を生かす工夫をすることができるようになったと思います。また、他の人の意見を聞くことで自分との違いを考えることができた。

4 おわりに

昨年度改訂された学習指導要領には、生徒の思考を深めさせたり、表現を豊かにさせたりしながら、知識及び技術の習得や工夫し創造する能力の育成を図るため、実践的・体験的な学習や問題解決的な学習のより一層の充実を図ることが唱われている。これらの学習を進めていく中で、「活用する力」を身に付けることは必要不可欠であり、現在取り組んでいる活用型学習活動を取り入れた授業の実践により、思考力・判断力・表現力等の育成を図ることができると考えられる。

本年度は、実践的・体験的な学習や問題解決的な学習を進めていく中で、昨年度に引き続き「活用型学習活動の流れ」に沿って授業構想を行い、生徒が何をどのように活用するのか、どのような視点を持たせるのかをより一層明確なものにした。このことにより、生徒の思考や判断を促進させたり、表現を工夫させたりするための学習活動を充実させることができた。また、生徒の授業後のコメントの蓄積から、学習活動で得た思考の視点が生徒についていること、「できた」と感じた生徒ほど実生活への活用の意欲が高いことが読み取れた。

今後は、活用型学習活動を取り入れた授業の実践例をより多く構想するとともに、生徒がどのように変容したかさらに明らかにするために、授業実践記録や生徒意識調査等の蓄積を継続していきたい。

【参考文献】

- ・文部科学省：『中学校学習指導要領(平成10年12月)解説—技術・家庭科編—』，東京書籍，平成11年9月，平成16年5月，一部補訂
- ・文部科学省：『中学校学習指導要領』，平成20年3月
- ・文部科学省：『幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について』，中央教育審議会答申，平成20年1月17日
- ・文部科学省：『中学校学習指導要領解説 技術・家庭編』，教育図書，平成20年9月
- ・安藤茂樹：『中学校新学習指導要領の展開 技術家庭科 技術分野編』，明治図書，平成20年11月
- ・中村祐治：「これからの中学校技術・家庭科の指導と評価」『指導と評価』，日本図書文化協会，平成20年11月
- ・中村祐治，堀内かおる，岡本由希子，尾崎誠：『これならできる 授業が変わる 評価の実際「関心・意欲・態度」を育てる授業』，開隆堂，平成18年10月
- ・高浦勝義，松尾知明，山森光陽：『ルーブリックを活用した授業づくりと評価②中学校編』，教育開発研究所，平成18年8月
- ・国立教育政策研究所 教育課程研究センター：『平成19年度特定の課題に関する調査(中学校) —技術・家庭—』，平成21年3月